

令和3年度 真和中学・高等学校 学校評価

学校目標	「誠・信・望」の校訓のもとに「和」を重んずる豊かな人間性と、進んで「真」を追求する向学心と、社会に貢献しようという高い意欲を合わせ持つ生徒を育成する。			
具体的目標	○ 全教科・全領域で報恩感謝の心を育てる。		○ 言行に品位・品格が発露する態度を養う。	
	○ 基礎・基本の充実、自調・自考による真（深）の学力を培う。		○ 健全な身体・心の育成を図る。	
	○ 人への礼讓・勤労の智慧に通じる掃除の徳を体得する。		○ 登下校時の四恩塔一礼を定着させる。	
学校経営	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
	①募集・広報活動の充実 ②高三生の進路保障及び入試改革に対応するための総合的・多面的な学力の育成 ③校内組織力の向上 ④情報化推進のための校内環境の整備	①ホームページや学校説明会を開催すると共に、各学校等の要請に応じた説明会に積極的に応じ、学校の特色を発信する。 ②授業、課外の充実、学力向上委員会の活性化。 ③定例の運営委員会等を開催し意思の疎通を図る。 ④非常時に備えオンライン授業が出来るようID/パスワードの把握	B	①ホームページの更新も、適宜行われている。学校生活の発信をさらに進めたい。また、塾訪問では、本音の話も聞け、今後の情報交換もできた。 ②まん延防止措置期間も学びを止めず、ZOOMによる授業も展開し自宅待機生徒への対応も時間割通り実施できた。本年度、探究活動への取り組みも計画的に実施し、課外活動の充実とともに多面的な学力の育成を図ることが出来た ③組織的な発信が出来るようになり、職務に対する責任感が出てきた。 ④3学期よりプロジェクターは使用可能になり授業、説明会にも活用でき、さらなる充実を図る為、ハイレベルな研修も必要である。
校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
① 総務部	①校務分掌や各学年との連携を深め迅速適正な処理を行い年度末や年度当初の企画立案をする。 ②年間行事や入学式、卒業式等の企画立案をする。 ③教具、用度品の購入管理、消耗品の管理について無駄をなくし効率的に使用する。 ④寮保護者会、育友会総会、役員会の企画立案し、保護者との連携、調整に努める。 ⑤学校要覧、真和通信、育友会だよりの編集、管理を行う。 ⑥全職員との共通理解のもとに教育計画の充実と達成に努力する。	①校務分掌や各学年との連携を深め迅速適正な処理を行い年度末や年度当初の企画立案をする。 ②年間行事や入学式、卒業式等の企画立案をする。 ③教具、用度品の購入管理、消耗品の管理について無駄をなくし効率的に使用する。 ④寮保護者会、育友会総会、役員会の企画立案し、保護者との連携、調整に努める。 ⑤学校要覧、真和通信、育友会だよりの編集、管理を行う。 ⑥全職員との共通理解のもとに教育計画の充実と達成に努力する。	B	①年度末や年度当初計画を作成を無事に行うことができた。 ②新型コロナウイルス感染対策のため行事の中止や規模の縮小しなければならなかった。リモートを活用することで形式を変えて行事を行うことができた。 ③消耗品持ち出し表に使用場所、品目、個数、氏名を書かせ、消耗品の管理徹底を行っている。消耗品の調達では教員が行うことは非常に難しい。消耗品調達専属の事務員が必要である。 ④今年度は新型コロナウイルスの感染流行に伴って学校行事ができないことが多かった。 ⑤学校要覧、真和通信を予定どおり発行したが完成を急ぐ必要がある。育友会たよりは育友会により発行することができた。 ⑥寮生指導においては多数の先生に協力してもらった。
② 教務部	① 6年間を見通した教育プログラムの確立 ② 新学習指導要領に適合した教育課程の確立 ③ 進級規定の見直し ④ 総合探究の充実 ⑤ 年間授業時数の均等化 ⑥ 模試の授業化 ⑦ 定期考査の位置づけ ⑧ 指導要録・出席簿、教務日誌の効率化 ⑨ 授業力向上 ⑩ 低学力生徒の指導の充実および学習習慣の確立	① シラバス作成の徹底、学年間での教材の共通化 ② 教務部による横断的な教育課程の分析・検討の実施 ③ 中高一貫校として中高共通化した進級規定へ変更 ④ 中高への新教材の導入、課題論文作成へのロードマップ作成 ⑤ 時数カウントによる曜日入れ替えの実施 ⑥ 授業中に模擬試験を実施し、授業の一環とする。また、やり直しを徹底させ、知識を定着させる。 ⑦ 明け考査を実力考査として位置づけ、学年全体で順位をつける。定期考査間の日数の均等化により考査毎の難易度差をなくす。 ⑧ 毎日の生徒出欠の入力の簡素化、デジタル化への移行 ⑨ 教師間での授業見学、生徒による教師評価制度の導入、自習の回避徹底 ⑩ 効率化された学習指導、実のある学習指導の確立	A	①各教科に依頼し、おおむね完成しているが、更なる充実を図りたい。 ②新カリキュラムの策定完了。 ③教務規定変更完了、すでに実施中である。 ④中1高Iともにエナジードを導入し、探求学習の核にしたい。また、中学生の課題論文への取り組みを計画し、その工程を作成し実施に向けて準備中である。 ⑤授業時数の確保を念頭に年間行事予定に曜日入れ替えを検討し、各教科の授業時数の十分な確保ができる見通しとなった。 ⑥各種教務に関係する年間行事を検討し作成済み。 ⑦次年度より休み明け考査を実質的な実力考査へ変更し、高校では学年全体（文系理系）で比較ができるようにした。中学は週テストを新たに設け数種の課題テストや模試等の代替措置として位置付ける。それぞれコース編成及び推薦入試の判断材料とする。 ⑧おおむね良好な結果を得ているが、担当者の負担が大きいため、校務用のタブレット等の導入を図り効率化を進めていくようにする。 ⑨教師間の授業見学は一部で実施できた。今後はさらに拡大して実施していきたい。自習の回避は更なる検討が必要である。生徒による評価制度は内容を検討しながら次年度より段階を踏んで実施していく見込みがたった。

				⑩スタディサプリによる授業配信の方法論などを先進校視察を通じて学び、実施する予定にしている。次年度よりカリキュラムに週テスト時間を導入し、効率よく週の復習を生徒へ促すように企図したい。授業中の小テストの減少により効率化された授業が展開できる見込みである。
--	--	--	--	---

校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
③ 生徒指導部	①いじめの早期発見・早期指導 ②SNS・スマートフォンのマナー ③挨拶の励行 ④自転車通学のマナー ⑤服装・身だしなみの徹底 ⑥コロナ禍での学校生活の充実	①いじめアンケートの毎月実施と各クラスでの定期的な二者面談を実施し、早期に対応する。 ②各クラスでの朝礼や終礼での指導や、学年集会での専門家による情報モラル授業の実施。 ③正門での四恩塔一礼の徹底、気持ちの良い挨拶の実施。 ④登校下校時、左側通行及び交差点での安全確認の強化。下校の際、全員正門から左側への下校の徹底。 ⑤職員室等の入室時や各クラス、各授業担当者で、該当生徒への指導を行う。 ⑥集会時、各HRにおいて廊下・教室で大声を出さないこと、昼食時の黙食の徹底。	B	①毎月一回のいじめアンケートや二者面談だけでなく日常生活にも注意をし、気になる生徒には早期に声かけなどを行った。 ②各クラスや学年で定期的な呼びかけや学年での情報モラル教育を実施し、大きな問題はなかった。 ③正門での四恩塔一礼は登校時は良くできていたが、下校時には差があった。 ④下校時に正門から右側通行で出ていく生徒は減ったが、まだ完全ではなく、次年度の課題である。 ⑤ほとんどの生徒がよくできていたが、一部でネクタイやリボンの緩み、第一ボタン外れの生徒もあり、今後も継続した指導が必要である。 ⑥各学年休み時間、昼食時間当番を決め、見回りにあたった。しかし、完全に徹底されたわけではなく、この状況下で今後の課題でもあ
④ 進路指導部	①中高一貫6カ年教育の中での進学・進路指導カリキュラムの構築 ②中等部・高等部の進路指導面での連携 ③高大接続改革の中で始まった思考力・判断力・表現力を求められる「共通テスト」や「新大学入試」に関する情報共有とその対策 ④「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」に個別対応可能な組織作り	①11月15・16日昭和薬科大学付属高等学校・附属中学校訪問。報告会が実施され、学校独自の取り組みについて学んだ。本校の現状をしっかりと把握し、これらかの更なる飛躍を視野に入れ生徒達の実態に合ったカリキュラム作りが必要である。 ②進路指導部会において、中学1年～高校3年まで各学年の1年間の進路指導に関する取り組みをまとめ、各学年の問題提起、そしてその改善策および今後の連携指導について話し合いを持った。また、実施している模試について、全国の受験校・受験者数など精査し、継続して実施するかどうか検討が必要である。 ③「Public」進路フォルダーを活用し、「新入試」に関する情報共有を行った。 今年度は10月4日から夕課外時間帯に、大学別・志望学部別の入試教科特別対策授業を行った。 ④志望理由書・小論文指導・面接指導について、課題内容を把握し昨年度同様個別対応を実施した。	B	①各教科、生徒達の理解度等、現状をしっかりと把握する。現在、中学・高校全学年でスタディサプリを導入している。この映像授業・到達度テストそして紐付けされる動画の活用など有意義な活用法を考える。 ②低学年での学習習慣の定着を図る対策が早急に必要である。生徒および保護者の学校に対する期待や要望をしっかりと捉え、学級担任・教科担当者共に指導に当たる。 ③高大接続改革半ば。2025年度大学入学共通テストの検討案では、現在の6教科30科目に情報を加え7教科21科目に変更することが決定。また、試験時間は国語80分から90分へ、数学ⅡB60分から70分へ変更されている。最新の情報を共有し、その変革に柔軟な対応ができるよう周到な準備が望まれる。 ④「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」募集人数は、入学定員に対して国公立大学で約3割、私立大学では5割を超え、本校でも受験希望者が多い早稲田大学は6割に達している。今後、入試前の個別対応のみならず、特別活動など低学年からの対策が必要である。
⑤ 保健体育部	①健康意識の高揚を図る ②基本的な生活習慣の確立 ③安全・安心な教育環境づくり ④新型コロナウイルス感染症の感染予防対策の徹底	①内科検診、眼科検診、歯科検診を実施し、保健だより「リフレッシュ」を配付 ②毎日のHRやLHRを活用した担任指導、保健体育の授業を通して教科担当者による指導 ③保健委員による水質検査や健康チェックカード、各学期に実施する学校環境衛生点検、美化委員主導による美化活動、体育科職員による体育施設・設備の安全点検 ④毎日の健康観察シートの記録、消毒・換気・マスク着用の徹底と、三密回避への指導と声掛け	B	①各検診は、コロナ関連で日程を変更し、感染症対策を行い実施することができた。保健だより「リフレッシュ」も例年以上に感染症を意識した内容にし、配付できた。 ②感染症予防対策中心の指導になってしまった。定期考査後の体調不良者のほとんどが睡眠不足であった。 ③保健委員の活動や体育職員の点検はできたが、美化活動ができていない部分もあり、工夫しなければならない。 ④マスク着用は徹底できたが、三密回避や観察シートの提出が徹底できておらず、全員提出に向けての協力や工夫が必要と感じた。真夏や真冬の換気もできる範囲では実施できた。

校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
⑥ 募集入試対策部	<p>①魅力ある「学校案内」の作成と各学校・塾・個人への速やかな資料送付及び情報提供</p> <p>②入試説明会や各中学校の説明会での丁寧な募集活動</p> <p>③諸般の状況に対応しWEB出願の導入及び確認の徹底</p> <p>④常に最新の情報をHPに掲載し入試説明会や入学試験についての周知を図る</p>	<p>① コロナ禍でも対策をしっかりと取り、工夫して情報を発信し、1人でも多くの生徒が本校を志望するような募集活動に努める。</p> <p>② 塾や中学校への迅速で丁寧な説明および資料の送付。</p> <p>③ 初めてのWEB出願において十分に検討・確認して、ミスのない円滑な入学試験と業務に努める。</p> <p>④ 入試説明会や入学試験についてHPに早期掲載し周知を図り、最新の情報の掲載する。</p>	B	<p>①7月のオープンスクールでは、参加希望多数のため急遽会場を熊本城ホールに変更したが、全職員の協力のもと無事に実施することができた。第1回入試説明会はコロナ感染症蔓延防止期間のため止む無く中止せざるを得なかったが、第2回説明会では満席近くご参加いただいた。何れも検温・消毒・間隔を空けて座るなど十分にコロナ対策をして実施した。</p> <p>②塾や中学校へは担当を決め、直接お伺いして本校の魅力についてご理解いただけるようデータを示しながら丁寧に説明した。</p> <p>③初めてのWEB出願については説明会で十分に説明し、電話等での質問にも丁寧に対応した。</p> <p>④入試説明会のお知らせについては、HPへの早期掲載を心がけ情報の周知を図った。</p>
⑦ 事務部	<p>①就学支援金や奨学のための給付金、授業料減免など経済的に生徒・保護者を支援する制度について、保護者へ周知し、申請が出たものについては県への進達など速やかな事務処理を行う。</p> <p>②校納金の受納事務を的確に行い滞納等がないようにする。</p> <p>③国庫補助金を活用し、中学校に1人1台のタブレット導入する。</p> <p>④学校内で使用する備品や消耗品について、円滑な教育活動が行えるよう管理や調達を的確に行う。</p> <p>⑤校舎・グラウンドの良好な状況を保つ。</p> <p>⑥外部から学校に届く文書、電話、来客の受付を的確に行い外部との円滑な交流を図る。</p> <p>⑦WEB出願を導入する。</p>	<p>①就学支援金や授業料減免について、本年度からの改正点を保護者に周知し、希望者全員が申請するようする。</p> <p>②滞納者には適時に督促を行う。</p> <p>③ICT教育推進のため国庫補助金を活用する。</p> <p>④購入希望があったものについて必要性を判断し、速やかに対処する。</p> <p>⑤校舎等の巡回や事務室に寄せられた情報をもとに速やかに対処する。</p> <p>⑥受付での間違いのないようにまた丁寧な対応を心掛ける。</p> <p>⑦業務の省力化のためWEB出願を導入する。</p>	A	<p>①保護者への文書やメールにより周知できた。</p> <p>②授業の年度末時点での滞納はない。</p> <p>③中学生については、1人1台のタブレット導入ができた。</p> <p>④郵便料等の急な支出にもできるだけ対応した。</p> <p>⑤自転車置き場からの通路や中庭通路などの整備など行った。</p> <p>⑥窓口対応の誤りに拠る大きなトラブルの発生はなかった。</p> <p>⑦WEB出願がスムーズに行えた。</p>

4段階評価	A: 大いに改善あり B: だいたい改善あり
	C: やや改善なし D: 全く改善なし